村づくり寄り合い所　結果報告書

1　開催日時

10 月 26 日（火）、27 日（水）、28 日（木）、11 月２日（火）、４日（木）
いずれも午後７時から

2　場所

原村役場３階講堂

3　テーマ及び参加者数

開催日	テーマ	参加者数
10 月 26 日	人と自然を大切にした住みよい村づくり	17 人
10 月 27 日	人と文化を育む村づくり	26 人
10 月 28 日	環境と共生した活力ある村づくり	9 人
11 月　2 日	計画推進の方策	18 人
11 月　4 日	健康としあわせを誇れる福祉の村づくり	20 人
計		90 人

4　出席者から出された意見等

（1）第１節　人と自然を大切にした住みよい村づくり

・高原にふさわしくない施設等ができないよう、環境保全条例を見直してほしい。
・夜でも案内板が見えるよう配慮すべき。
・春の清掃活動は、草が多く茂ってほとんど拾えないので、もう少し早く計画してほしい。
・新エネルギー導入として、県庁にあるトイレの臭突燈のような風力発電の導入を検討して欲しい。
・払沢上の住宅団地について、１区画 100 坪程度を予定しているとのことだが、150 坪以上に区画し、家庭菜園もできる特長ある住宅団地にして欲しい。
・村道丸山菖蒲沢線について、朝の時間帯の菖蒲澤は家からなかなか出られない時が多いので、早い対応をお願いしたい。
・中央道原下りＰＡ前の駐車場について、ルーズな駐車や長時間の駐車により周囲の畑に入れず作業できなくなる時がある。看板設置や駐車場増設による対応を。
・歩道が道路側に傾いており、健常者でも歩きにくく、高齢者は大変。平らにつくり、歩道バリアフリー化を図って欲しい。
・木が茂って道路や河川に日が当らない。特にペンション線の臥竜公園付近は冬場の事故も多く発生している。除雪や事故防止のため、木を切るよう検討して欲しい。
・治山について、カラマツ林の切りっぱなしが多いが自然環境に良くない。昔に比べ歩きにくくなっており、造成をきちんと進めて欲しい。

（２）第２節　人と文化を育む村づくり

・図書館の平均貸出冊数を考えるのではなく、現在１冊も借りない人が利用する方法を考えるべきではないか。
・生涯学習講座の分館活動分について、資料を図書館に保存し誰でも見られるようにして欲しい。
・図書館が連休時に休館していることが多く、利用したい人にとって不便。
・学校では地域人材の活用を行っているが、公民館でも優れた地域人材を活用できるよう図って欲しい。
・阿久遺跡をはじめとする文化財を観光と連携し、集客や活性化を図る施策を。
・スキーでジュニアオリンピックに出場した子がいるが、富士見町のジュニアスキークラブに所属し富士見町の施設を使っている。富士見町のお世話になっているので、例えばシーズンオフにもみの湯などの利用料を減免する等の便宜を図ることは考えられないか。
・各地区の遊具について、点検に村が補助し安全を図って欲しい。
・図書館の蔵書が物足りない。村民に寄贈してもらい、充実を。
・１紙で良いので、新聞の縮小版をそろえて欲しい。
・今の子どもたちは田植え、稲刈り、火おこし等ができないため、農事体験を通じて郷土の理解を深めて欲しい。
・茅野市や富士見町では遺跡が活用されているので、原村でも考えて欲しい。
・計画は盛りだくさんにするのではなく、重点を挙げて行って欲しい。
・講座を浅く広く開催し、その後に状況により深めて欲しい。有料でも良い。

（３）第３節　健康としあわせを誇れる福祉の村づくり

・今の子どもは運動をしなくなり菓子ばかり食べている。食育としておにぎりをおやつに食べさせるよう指導できないか。
・あえて障害をつくる「バリアアリー」（高齢者が段差等に気をつけることにより脳の活性化になる）も必要。
・老人クラブには高齢者の技能や知識がある。活用できないか。
・葉酸を取り入れた事業を進めることにより、医療費を４億円削減した自治体があるが、地産地消にもなるので原村でも取り入れてみてはどうか。
・住民参加のもとネットワークを作り、財政的な負担を抑え、将来像を持ちメリハリのある行政運営を。
・元気な高齢者を活用し若い世代の負担を減らすために、人材バンク、ボランティア登録等を活用して欲しい。そのためにはボランティアコーディネーターが必要。
・「広報はら」は見ているようで見られていない。有線放送については、地区放送は聞くもののそれ以外の放送は聞き逃す。「歯の話」は音楽が流れてもＴＶを見ている最中なので放送の音量を下げてしまう。現在行っている制度啓発以外に何か方法があると考えられるので、検討して欲しい。

・住民相談について、直接弁護士等でなくワンクッション置いた体制があったら。
母親であれば地域福祉センターに行きやすいし、保健師が受け付けてくれたらよい。

（４）第４節　環境と共生した活力ある村づくり

・特産品づくりについて、村で加工所をつくり貸し出すなど、いろんなものを作って自立していくための方策を考えて欲しい。
・直売所ができれば特産品も生まれると思うが、村営の直売所はできないか。
・新規就農について、未経験者に対する研修や指導をできないか。
・原村の新鮮野菜を都市部に直接販売したりＰＲすることはできないか。
・郷友会の中にも親善大使を受けたいという方がいるが、活用できないか。
・５０人くらいの宿泊客を受け入れる場所がなく、観光の通過点になっているように思える。観光客を留める施策を考えて欲しい。
・スーパートレイルについて村内のコースは未整備で危険と思うが、既存の棒道等を活用できないか。
・道の駅などの直売所や加工施設は、特産品開発・雇用確保・都市との交流などにより子どもたちの体験学習や村の商工業活性化が期待できる。総合的な施策の検討を。
・諏訪南ＩＣ周辺に特色ある店がない。富士見町と共同し、活性化する方策を。
・中央道原上りＰＡで八ヶ岳中央農業実践大学校が野菜を直売している。村からも、赤字でも良いのでできるだけ安く販売する方法を考えて欲しい。
・核になる事業を計画に位置付け、ある程度夢のある前向きな計画を。
・公共交通について、夜間に一周するバスの運行を希望する。
・計画にメリハリをつけなければ目的がわかりづらい。実現を目指して具体的にステップを踏んだプロジェクトを計画し、若い人が夢を持てるように。
・民間の直売所が盛っているので、活用する方策を。

（５）第５節　計画推進の方策

・集落行動計画について、現実的には区内の話し合いのきっかけ等を行うのも大変であるため、アンケートの取り方のマニュアル等、第一歩は行政の支援を。
・以前、集落行動計画を推進している先生の話を聞いたことがあるので、このような方のノウハウをもう一度聞くことができたら良い。
・定員管理について、もうこれ以上は無理ではないか。また、災害時や多忙時には、職務に融通を利かせるべきではないか。
・職員と臨時職員の待遇差はいかがなものか。
・職員を減らして区にいろいろ押しつけるのは、やめてもらいたい。知恵を出して対応を。
・個人情報について、集落行動計画における災害時の対応は、行政で検討して欲しい。